

文化・芸術

「街」

1938年、油彩、白板
131.0cm×163.0cm（大川美術館蔵）

松本竣介（1947年）

黒く太い輪郭線を用いて建物や人物を描くことから始まった松本竣介の絵画は、1930年代末ごろから、街の風景と人物とをモンタージュの手法で重ね描いた都会の情景へと変わっていきました。その最も早い作例が本作です。透明な青と、多様な質感による黒の描線の集積が、画面に静謐（せいひつ）な詩情をもたらしています。

本作は現在、愛知県碧南市の藤井達吉現代美術館で9月8日まで開催中の「松本竣介『街』と昭和モダン―糖業協会と大川美術館のコレクションによる―」に出品しています。36年に創設した公益社団法人糖業協会が所蔵する大正期末から昭和中期までの近代洋画の優品とともにご覧いただけます。（小此木）

《名画の扉》

「松本竣介『街』と昭和モダン」から

